

## 平成22年8月教育委員会会議（定例会）会議録

- 1 日 時 平成22年8月27日（金）午後2時00分～午後4時04分
- 2 場 所 所沢市役所6階 602会議室
- 3 出席者 [委員] 富田常世委員長、古敷谷千賀子委員長職務代理者、清水三和子委員、守谷靖委員、佐藤徳一教育長  
[事務局] 山寄裕司教育総務部長、内野正行学校教育部長、藤田晃教育総務部次長、平塚俊夫学校教育部次長兼学校教育課長、田中文雄教育施設担当参事兼教育施設課長、則武辰夫社会教育担当参事兼社会教育課長、金子美也子生涯学習担当参事兼生涯学習推進センター所長、中村藤司保健給食担当参事兼保健給食課長、北健志教育総務課長、関口恭一スポーツ振興課長、鈴木正行文化財保護課長、斉藤雅裕所沢図書館長、齊藤仁教育センター所長、川音孝夫学校教育課教育指導担当主幹兼健やか輝き支援室長、岸健次教育総務課副主幹、山中徳子学校教育課副主幹兼指導主事  
[書記] 大部稔之教育総務課主査、皆川博幸教育総務課主査
- 4 前回会議録の承認
- 5 会議の傍聴者 別添のとおり（3名）
- 6 開 会 本日の議案は、議案第16号から第20号までの5件。議案第20号「平成23年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について」は、審議、検討又は協議に関する情報のため、非公開としたい旨の発議があり、出席委員全員が賛成し、非公開で審議されることに決定した。
- 7 議 題  
議案第16号 所沢市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する訓令について  
資料に則り、平塚学校教育部次長兼学校教育課長から説明がなされた。  
以下、質疑。  
(古敷谷委員長職務代理者)  
別添資料のうち「1の年」とあるのは、初めの年ということではなく、1年間という意味でよいのか。  
(平塚学校教育部次長)  
はい。  
(富田委員長)

かつては、兄弟など他に面倒を見ることができる人がいる場合には、介護休暇を取得できなかったと思うが、今はそれに関係なく介護休暇を取得できるようになったのか。

(平塚学校教育課次長)

実際に職員による介護が必要であると認められる場合には、介護休暇を取得することが可能です。

※ 富田委員長の採決により、委員全員が賛成し原案どおり可決された。

### 【 傍聴者（２名）退室 午後２時１５分 】

議案第１７号 所沢市社会教育委員の委嘱について

資料に則り、則武社会教育担当参事兼社会教育課長から説明がなされた。

以下、質疑。

(守谷委員)

人数枠が２０人以内となっているようだが、５人余っている理由は何か。

(則武社会教育担当参事)

これまでも１５名の委員さんにより活発な議論がなされてきており、先の諮問に対する答申に際しましても、熱心で十分な議論をいただけたことから、今回も１５名でお願いするものです。

※ 富田委員長の採決により、委員全員が賛成し原案どおり可決された。

議案第１８号 所沢市立所沢図書館協議会委員の任命について

資料に則り、斉藤所沢図書館長から説明がなされた。

以下、質疑。

(富田委員長)

委員を選任する際の基準はあるのか。

(斉藤所沢図書館長)

任命に当たって基準は特にありませんが、所沢市に関係のある方をお願いするようにしています。

(佐藤教育長)

各団体からの推薦による選任の場合、その団体を退会してしまうなどの心配はないか。

(斉藤所沢図書館長)

特定の団体から推薦をいただくという定めは特にありませんし、候補者個人にお願いしているケースもあります。

(佐藤教育長)

例えば、学校教育関係者が退職した場合などはどうか。

(斉藤所沢図書館長)

改めて小・中学校長会から後任を推薦していただくようお願いしています。

※ 富田委員長の採決により、委員全員が賛成し原案どおり可決された。

議案第19号 教育委員会の事務事業に関する点検評価報告書について

資料に則り、北教育総務課長から説明がなされた。

以下、質疑。

(清水委員)

14ページの事業開始年度を加えたことは、その事業がどのくらい継続しているかが分かるので良かったと思う。全体的に親切な表現に改められた印象を受けた。何気なく使っている言葉も市民にとっては分かりづらいということはある。

(古敷谷委員長職務代理者)

7ページ下段の決算額の構成比について、社会教育費が平成19年度、平成20年度と比較して率が高かったのは何故か。また、小学校費が少なくなっている印象を受けるがいかがか。

(山寄教育総務部長)

社会教育費につきましては、中央公民館に係る施設整備費が増えているものです。小学校費については、耐震が影響しているものと思われませんが、相対的に小・中学校費は例年並みの予算を付けさせていただいております。学校運営も支障なく行われています。

(古敷谷委員長職務代理者)

特に予算が削られたというわけではないのか。

(田中教育施設担当参事)

耐震補強工事が平成22年度にずれ込んだことから、平成21年度予算を平成22年度に繰り越したために、決算額が低くなったものです。

(守谷委員)

7ページ最上段の表は、予算額なのか決算額なのか。

(山寄教育総務部長)

予算額になります。

(守谷委員)

そうすると、注釈はどうなるのか。

(山寄教育総務部長)

確認いたします。

(清水委員)

毎年、教育委員会の点検評価結果を市民に公表して、何か反応はあったか。

(北教育総務課長)

市民からの反応は特にありませんでした。市議会においては、議員さんから質問を受けたことはあります。

(清水委員)

議員さんの評価はどうなのか。

(北教育総務課長)

評価というより、数値にかかる質問が何点かあったのみです。

(富田委員長)

11ページの文中に教育センターに関する記述があるが、他の区分と同様に独立した一つの項目として教育センター事業をまとめてもらったほうがいいのではないか。

(北教育総務課長)

この部分は、有識者からいただいたご意見をまとめたものですが、来年度は有識者に対し、そのような分類でご意見をいただくよう依頼いたします。

(富田委員長)

31ページに教育センターの事業で新たに医療相談を開始したとあるが、どのような内容なのか。

(齊藤教育センター所長)

発達障害等の児童が増えてきていることから、特に専門的な診断が必要な児童について、精神科医による相談を始めたところです。

(富田委員長)

主に発達障害を対象にしているということによいか。

(齊藤教育センター所長)

はい。

(守谷委員)

整理番号21-1、21-33のICTについて、有識者からは意見が出されなかったのか。

(北教育総務課長)

特にご意見はありませんでした。

※ 富田委員長の採決により、委員全員が賛成し原案どおり可決された。

### 【 傍聴者（1名）退室 午後2時46分 】

議案第20号 平成23年度使用特別支援学級用教科用図書採択について  
資料に則り、平塚学校教育部長兼学校教育課長から説明がなされた。

《 削除 》

※ 富田委員長の採決により、委員全員が賛成し原案どおり可決された。

## 8 協議事項

### ●所沢市教育振興基本計画について

資料に則り、北教育総務課長から説明がなされた。

以下、質疑。

(富田委員長)

埼玉県下で、所沢市の教育センターほど充実しているところは他にない。全国的に見てもかなりレベルが高いと認識している。20ページの教師力の向上や、19ページの教育センターにおける授業づくり、学級経営、カウンセリング能力の向上など教員の資質の向上に努めていく旨の記載があ

るが、国の計画においても教育の質の向上をねらっている。所沢市には教育センターという人的、規模的に全国に誇れる施設があり、様々なところから視察に来ている。教育委員会の責任として教育の質の向上が国の基本計画にも記載されていたので、そこをもっとアピールできないものか。主要施策の1番目に教師力の向上をあげてもらっていて良いと思うが、特に教育センターについてもっと訴えかけられないものかと思う。

また、35ページで、現状値100%、目標値も100%という項目が見受けられるが、これは目標になりえるのか。例えば量的に100%ならば質的な目標値を設定することも考えられるのではないか。

(藤田教育総務部次長)

素案の作成に当たり様々な方からご意見をいただきましたが、事務局としても悩ましいところではありました。しかしながら、現状値が100%でも、その後の努力を怠るとそれを維持できないということもありますので、現状値100%を維持していく、ということも努力目標になりうると考えます。委員長さんがおっしゃったように、質の向上も重要であると考えますので、解説欄にその旨記載するなど検討していきたいと思えます。

(富田委員長)

一般的に見て、違和感を感じる。

(山寄教育総務部長)

様々な事業を展開していくなかで、その目標として現状を維持していくということは、あっていいのではないかと考えています。表現の仕方として数値ではなく、「現状維持」としたほうが分かりやすいのかも知れませんので、検討させていただきます。

(清水委員)

36ページの校務用コンピュータとはどういうものか。現状7%しか導入されていないものを平成30年度に100%にするという目標になっているが。

(内野学校教育部長)

校務用コンピュータは、教員が学校の事務や成績処理に使うものです。所沢市では児童・生徒用コンピュータは早くから導入し、授業でも使われるようになってきていますが、校務用コンピュータについては、教育ネットワークにつながるものであるとか、メール配信などに使用するもので、現状値が7%になっています。具体的には、各学校の職員室に1台であるとか、メール配信用に1台ある程度です。今年度予算では、75%の導入率を達成できるよう予定しています。国の補助を受けながら100%達成を目標とするものです。

(清水委員)

そうすると、12ページの「情報教育の推進」において、「小中学校のホームページから積極的に情報発信をできるよう」という部分については、現状ではあまりできていないということになるか。

(内野学校教育部長)

各学校のホームページは別で、担当者がしっかりやっているか、チームとしてホームページの作成に取り組んでいるかによって、更新の回数が違ってくると思います。担当者が、毎回ホームページ上の学校だよりを更新したり、家庭への連絡事項をホームページにアップしたりしていることから、校務用コンピュータの台数とホームページの充実度は、必ずしもイコールではありません。

(清水委員)

ホームページの更新には、非常に労力がかかると思うので、ただでさえ忙しい先生ができるのだろうかと思う。チームでやるにしても相当な労力が必要なので、ホームページの充実も重要だが、それがために他に影響が出ないか逆に心配になる。情報教育の推進も、現実的には難しいものがあるように思う。現在ICTを活用しようという流れがあるが、そのための研修などで時間がかかり、それと並行してホームページも良くしていこうというのは、個人的には難しいのではないかと思う。ホームページから積極的に情報発信をできるようにする、ということをあえて言う必要があるのか疑問に思った。

(内野学校教育部長)

地域にひらくという教育界の大きな流れの中で、その方法の一つとして、ホームページを通じて学校の様子を分かってもらいたいということがあります。また、学校によっては、保護者宛の通知をホームページ上で、親がアクセスできるパスワードをつけて配信しているところもあります。校務用コンピュータが入ることによって、例えば体育祭や授業参観などの様子を撮った写真をサーバーに保管しておき、それをホームページに転用するなど、校務用コンピュータの普及によってホームページの更新の仕方も変わってくると思います。

(清水委員)

ホームページ担当の主任はいるのか。

(内野学校教育部長)

情報教育主任の教諭もいますが、異動してしまうこともあるので、チームでやっていくほうがうまくいくと思います。

(平塚学校教育部次長)

私も学校現場にいたときには、毎日ホームページを更新しておりましたが、実際にホームページを更新できる人が何人もでチームになってやらないと頻繁に更新していくことは困難です。毎日ではなく、行事がある度に更新していくとか、歳時記のように更新している学校もあります。若い先生方は比較的コンピュータにも堪能なので、今後は力になってくれる人が増えていくと思います。

(古敷谷委員長職務代理者)

12ページの所沢市学び改善プロジェクトの取組はたいへんすばらしいこ

とで、これがうまくできれば随分良くなると思った。基礎学力については、35ページの指標を見ると、9割くらいはできているようだが、残り1割の子を拾い上げられるような努力をして欲しいと思う。また、指標のうち現状値が5割ぐらいのもの（文化・芸術体験活動、ICTの活用、職場体験、障害児童・生徒の支援計画、道徳の公開授業、体力テストなど）は、是非100%を目指してほしい。37ページの家庭教育学級や人権教育研修への参加者について、働いている母親はなかなか参加が難しいので、やむを得ないとは思いますが、例えば家庭教育学級のなかに人権教育の内容必ず盛り込むようにするなど、やり方を工夫してみたらどうか。ボランティア人材バンクについても、ボランティアならできるという人は多くいるはずなので、もっとコマーシャルして人材を集めたらどうかと思った。

(守谷委員)

8ページの基本理念で、三つの“宝”を大きく育てて「充実した豊かな人生の実現」「活力あふれる社会の実現」を目指す、とされたことや、9ページの基本方針で、「義務教育修了までに、すべての子どもに自立して社会で生きていく基礎を育てます」と、積極的に踏み込んだ表現がされていて、とても良いと感じた。一方で、個々の主要施策のレベルで見えていくと、既にレベルが高いということもあるのだろうが、そのレベルを維持していくとか、現在取り組んでいるものを充実させていくなどの表現が多く見られる。新しく取り組むものがあまり見えてこなかった印象を受けたので、そうしたものがあるようなら教えて欲しい。

(平塚学校教育部長)

学び改善プロジェクトの内容をさらに発展、充実させていくということで、各小・中学校で学力向上のための取組を、各校の実態に合わせて進めていただくこととか、学力を検証していくための調査や、中学校では実施していても小学校では実施していないこともありましたが、そういった部分の検討も進めているところです。

(内野学校教育部長)

来年度は小学校の新学習指導要領が全面実施されることから、小学校5・6年生での外国語活動が始まります。その関係で、現在は地域のボランティアでお願いしている外部指導者について、事業として予算化できないか検討中です。国では、中学校における武道の必修化を提言していますが、これについては向陽中学校に武道場ができたことから、施設は完備できたこととなりますので、あとはそれを使ってどう指導していくかということになると思います。なお、中学校の新学習指導要領の全面実施は再来年度になります。

(齊藤教育センター所長)

確かな学力の育成ということで、学び改善プロジェクトが今年で2年目になりますが、教育センターでも研究員の研究について、学校で取り組んでいく「学習目標の提示」と「考えを引き出す」という二つに絞って、全て

の研究を今年度から始めています。

(富田委員長)

国の方針を斟酌しながら独自なものを作るとされているが、この計画は所沢市の独自性が出ていて、たいへん良いものができたと思う。9ページの①は国にも同様のものがあるが、②は所沢市独自のもので、国の方針を斟酌しつつ所沢市の独自性が出ていると思う。国のまねではなく、主体性を持って作られていると感じた。

(佐藤教育長)

6ページの図で、所沢市総合計画の計画年度を加え、横書きにしたほうがより強い結びつきに見えるのではないか。

● 「(仮称) まちづくりセンター」の設置について

8月16日(月)に実施した越谷市、狭山市の視察結果を受けて、資料に則り、則武社会教育担当参事から説明がなされた。

以下、質疑。

(守谷委員)

越谷市、狭山市それぞれ成り立ちも違い、越谷市では、公民館機能を持つ場所は多くあったが、行政サービス窓口を受けられる拠点が少なかったとのことで、同じ館のなかに出張所機能を入れることでより充実させるということがすごく分かりやすかった。一方、狭山市は所沢市と同じ傾向だと思うが、施設としては完備されているものの、なぜ看板が二つ必要なのか、ということを経営者の担当者から聞いた。この部分をどうイメージしていったらいいのかと考えてみると、例えば公民館から発するまちづくり事業を地域にある団体や公民館出身の団体などが進めていくための相談相手、事務局的な役割を、行政が担う形で進めていくことを充実させていくのがいいのかと感じた。それは所沢市が目指すスタイルに合っているか。

(則武社会教育担当参事)

所沢市の場合には、単なる公民館の中だけの活動ではなく、地域活動に貢献していきたいという意欲を持った方が多くいらっしゃいます。これは、今後まちづくりセンターが設置されたあとには、地域にそういった組織を作っていくというのが目的ですので、その際には中心となっていただく方々になると考えています。守谷委員さんがおっしゃったように、それぞれの行政区単位で自主的に地域に貢献するという方々の組織化ということになったときに、現在、公民館が持っている人的資源は大変有効なものであると考えます。

(清水委員)

最初にこの話を聞いたときには、どこかモデルケースから始めたほうがいいのではないかと思ったが、狭山市の状況を見て、一斉実施でも混乱は無いかも知れないと思った。狭山市は所沢市と同様に館は既にあるので、利用する市民にとっては、公民館と出張所だったものが、公民館とまちづく



りセンターというもの変わったと認識するように思う。公民館事業に係る人材も豊富で良いことだと思うが、純粋に生涯学習をしたいだけの人にとっては、少し敷居が高くなるのではないかと思った。また、補助執行か併任かについては、越谷市話を聞くと、補助執行の意味があったのかというふうに感じた。私としては併任によるほうが無理がないのではないかと思った。

(古敷谷委員長職務代理者)

人的に一緒になっている施設については、うまく進められると思うが、実際問題として公民館と出張所が一緒になっていないところは、どのようにしたらいいのかが、よく分からない。また、教育委員会所属のところは市長部局へなし崩し的に移ってしまうことは、いかがなものか。もっとも、市民にとっては同じ市の中の話であるから、施設が一緒のほうが便利だとは思っている。しかしながら、市民は便利なものはOKだが、何か担わなければならないとなると、そこに一段階ハードルがあるように思う。結局のところコミュニティや公民館で助けてくれる人というのも、決まったメンバーになるのではないかと思った。

(富田委員長)

越谷市と狭山市を視察してみて、まず職員が出張所サービスのほうに取られて、公民館的な要素を担っていく部分が弱まってしまっているのではないかと懸念された。清水委員が言われたように、併任という形にするのが良いのか、補助執行という形が良いのか。プロジェクトチームを作って公民館活動を活発化させるような組織、部門を社会教育課の中などに作らざるを得ない状況になっているようで、こうした問題をクリアしていかななくてはならないと感じた。また、公民館活動の学習内容が即、地域の活性化につながるのではなく、そこに来ている人達の力を借りて活性化のための事業をやっている。狭山市では、市民が自分達でやっているというより、市でかなり予算を付けてもらって、それを消化しながらやっているという「官」が強い感じを受けた。そういう点もどうしていくのか、予め分かっていることなので、そういう点をクリアして次へ進んでほしい。もし、一斉に実施するのであれば、先進市における問題点は所沢市においても起こりうることだから、その対策、対応を考えて進めてもらいたい。

(佐藤教育長)

今回の視察を含め、先進市でのうまくいっていない部分を、他山の石としないことが大事であると思います。そのためには、市長部局と教育委員会がしっかりと手を組む必要があると思います。持続可能な連携をしていかなければならないと感じました。

(山寄教育総務部長)

事務局といたしましても、ただ今委員さん方からいただきました、他市におけるデメリットをクリアして次に進むように、とのご意見につきましては、現在進めている市長部局との協議の場にて、委員さん方のご心配

がないように進めていきたいと考えております。協議の結果につきましては、次回の教育委員会会議で報告いたします。

## 9 報告事項

- 平成22年度地区体育祭・地区文化祭について（社会教育課）
- ミヤコタナゴの紙芝居について（文化財保護課）
- 埋蔵文化財調査センター秋の臨時開館・講演会について（文化財保護課）
- コンビニエンスストア図書等取次業務委託の一部縮小について（所沢図書館）

## 10 その他

- ・教育委員会 9月定例会：9月30日（木）午後 1時30分～ 602会議室
- ・教育委員会 10月定例会：10月29日（金）午前 10時00分～ 教育センター
- ・教育懇談会：10月29日（金）午後 1時30分～ 教育センター

## 11 閉会 午後4時04分